

## 第43回ASEAN議員会議（AIPA）総会派遣参議院代表団報告書

団 長	参議院議員	堂故 茂
	同	柴田 巧
同 行	国際会議課長	木暮 雅和
会議要員	国際会議課	大野ちひろ

### 1. 始めに

第43回ASEAN議員会議（AIPA）総会は、令和4（2022）年11月21日（月）から24日（木）まで、カンボジア王国のソカ・プノンペン・ホテルにおいて開催された。会議には、加盟国8代表団（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、フィリピン、シンガポール、タイ及びベトナム）、オブザーバー国・機関の13代表団（日本、オーストラリア、ベラルーシ、カナダ、欧州議会、インド、モロッコ、ノルウェー、パキスタン、韓国、ロシア、東ティモール及びウクライナ）及びゲスト国・機関の10代表団（アゼルバイジャン、ネパール、米国、ASEAN事務局、アジア・ビジョン研究所（AVI）、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）、世界平和議員連合（IAPP）、国際保護コーカス財団（ICCF）、寛容と平和のための世界評議会（GCTP）及びアジア議会センター（PCAasia））が出席した。

AIPAは、ASEAN域内の議会間組織であり、東南アジア地域の平和、安定及び繁栄のため、議会間の協力及び交流の促進を目的とし、毎年1回総会を開催している。本院は、東南アジアの各国議会人との協力関係を強化するため、1994年（第15回総会）以降、公式代表団を派遣している。

以下、本報告書では、本代表団の活動を中心に今次総会の概要を報告する。

### 2. 総会の概要

今次総会は、「持続可能で包摂的かつ強靱なASEANのための共同の進展」というテーマの下に開催され、ヘン・サムリン・カンボジア国民議会議長・AIPA議長が議長を務めた。

代表団は総会期間中、開会式、第1回全体会議及びAIPAと日本との対話に出席した。また、堂故茂団長は、開会式に先立ち、他のオブザーバー国・機関代表団団長と共にヘン・サムリン議長を表敬訪問した。

#### （1）開会式

開会式は、21日（月）午前に行われ、ノロドム・シハモニ・カンボジア国王によるメッセージが代読された後、サイ・チュム・カンボジア上院議長、フン・セン・カンボジア首相及びヘン・サムリン議長が演説した。

まず、シハモニ国王は、今次総会は、ASEAN地域の更なる平和及び繁栄の

達成に向けて現下の課題を克服するための連携、団結及びコミットメントの精神を真に反映するものであり、国及び地域の開発努力を今次総会のテーマである「持続可能性」、「包摂性」及び「強靱性」という概念と合致させなければならないとのメッセージを寄せた。

次に、サイ・チュム上院議長は、現在及び将来の全ての世代の人々に利益をもたらすASEAN共同体の実現のため、議会間パートナーシップの更なる強化が必要である旨指摘するとともに、持続可能な回復を更に促進し、誰一人取り残さない、人間中心の開発を支援し、将来の危機に備えた強靱な社会を構築するために、AIPAを通じて各国政府におけるカウンターパートとの相乗効果を高めていく必要がある旨述べた。

次いで、フン・セン首相は、人々の生命を脅かし、経済の回復を阻害する多くの課題に世界が直面している中、今次総会のテーマは、地域及び世界の発展に適時に対応し、共通の繁栄に向け、ASEANの社会・経済の回復を加速させ、共有する責任感を高めることに資するものである旨述べた。

最後に、ヘン・サムリン議長は、台湾や朝鮮半島をめぐる緊張、ミャンマーにおける政治・人道危機、ウクライナ戦争といった世界が直面する課題に対応するため、AIPAは不断の意思をもって多国間システムの強化を促進しなければならないと、また、国、地域及び世界レベルでの平和と寛容を促進する上で、議会外交は重要な役割を果たし続けなければならない旨述べた後、総会の開会を宣言した。

## **(2) 第1回全体会議**

第1回全体会議は、21日（月）午後に行われ、各国の代表が演説を行った。

各加盟国の代表は、地域及び国際舞台における役割を高めるための議論の場としてのAIPA総会の重要性、新型コロナウイルス感染症からの社会・経済回復等に向けた地域協力の促進に際し、ASEAN各国議会が果たすべき役割、地域及び世界的課題により効果的に対処するため、地域議会と対話パートナー間の協力を高め、より緊密に取り組む必要性等について述べた。

続いて、堂故団長を始め、オブザーバー国・機関の代表が演説を行った。

堂故団長は、まず、日本とASEANの関係は各分野において大きな成果を上げており、2023年の日ASEAN友好協力50周年を機に、更なる協力関係が構築されるものと確信している旨発言した。次いで、今次総会から若手議員会議が開催されることに触れ、地域の平和と安定に向けたAIPAの更なる役割と貢献に期待を寄せるとともに、参議院ASEAN議員交流推進議員連盟の一員として、日ASEAN間の議会間交流をより深化させたいとの思いを述べた。次に、今次総会のテーマを踏まえ、「自由で開かれたインド太平洋」とインド太平洋に関するASEANアウトックとのシナジーを追求するべく、「物理的連結性」、「人的連結性」及び「制度的連結性」という三つの連結性を強化し、ASEAN

共同体の統合深化を一層支援していく旨の決意を表明した。さらに、ASEANに対する日本の新型コロナウイルス感染症対策支援を紹介した後、公正で透明な開発のための協力を通じ、引き続きASEANの持続可能な成長を支援していく旨発言した。

### (3) AIPAと日本との対話

23日(水)午後、代表団は、AIPA加盟6か国の議員12名と約1時間30分にわたり、平和、持続可能な開発及び新型コロナウイルス感染症後の回復への投資をテーマに意見交換を行った。

冒頭、堂故団長は、今次総会中に発生したインドネシアの地震被害に対しお見舞いを述べるとともに、一日も早い被災地の復旧・復興を願う旨発言した。次いで、2023年に50周年を迎える日本とASEANの友好協力関係は、関係発足当初から緊密な協力関係を築いており、新型コロナウイルス感染症対策においても連携してきた旨指摘した上で、本対話においては、議題に限らず、幅広い分野で率直な意見交換を行いたい旨述べた。

続いて、AIPA各国議員から、ASEAN地域に対する日本の支援について、それぞれ謝意が表明されるとともに、法制度支援、デジタル分野における協力関係、新型コロナウイルス感染症への対応及び同感染症の克服に向けた協働、日本とASEANの経済連携、食料及びエネルギー安全保障、人的交流の促進等について、発言があった。

AIPA各国議員からの発言に対し、堂故団長は、新型コロナウイルス感染症を克服し、次なるステップに向かう大事な局面にある中、ASEANに対する財政支援、ワクチンや医療機器の提供、ASEAN感染症センター設立への支援などに尽力する必要がある旨述べた上で、ASEANの持続的な経済成長及び連結性は、ASEANだけでなく、日本にとっても重要なものであり、AIPA各国議員からの期待に応え、信頼できる日本であるよう、これからも努めていきたい旨発言した。次いで、柴田巧議員は、新型コロナウイルス感染症の克服のためには、経済連携を更に進めると同時に、その基盤となる人作り、国作りへの貢献を日本としても一層強めていくべきである旨指摘した。その上で、この観点から、青少年交流を始め、文化、学術、スポーツの交流などを更に広げていくことが重要である旨述べた。また、インドネシアでの地震に触れ、日本が発展させてきた防災技術について言及したほか、国や経済の基盤となる法制度支援の強化も進めていく旨発言した。さらに、参議院はODAを重視した議院であり、本日各国議員から頂いた意見を基に、今後の対ASEAN政策をしっかりと議論していくとの意思を表明した。

次に、ベトナムの議員から、新型コロナウイルス感染症への対応における社会的に立場の弱い人々への支援の在り方について、また、フィリピンの議員から、化石燃料の代替としての原子力発電の活用について、それぞれ意見を伺いたい旨

発言があった。

これらに対し、堂故団長は、まず、誰一人取り残さない社会こそが我々が目指す社会である旨強調した上で、デジタル技術やグリーン環境技術の活用によって、障壁を乗り越え、利便性の高い生活をあらゆる人々に提供するような政策が大事である旨述べた。また、日本では2030年には温室効果ガスの46%削減、2050年にはカーボンフリーを目指しているところ、原子力発電と併せて水力や地下熱といった再生可能エネルギーも増やすことが必要であるとともに、原発に関する技術者を育成し、より安全な原発を目指すことが重要である旨述べた。次いで、柴田議員は、日本では、新たな技術を用いた原発開発の機運も出つつあり、米国やヨーロッパなどの原発先進国とも協力し、より安全性の高い原発に向け、日本も努力していくべきだとの考えを示した。併せて、水素技術を始めとする様々な再生可能エネルギーの可能性に言及し、富山県で活用が進んでいる小水力発電を紹介した上で、こうした技術をASEAN諸国で広げていきたい旨述べた。

#### **(4) 第2回全体会議**

第2回全体会議は、23日（水）午前及び24日（木）午前に行われ、各委員会の委員長等による報告が行われた後、報告書が採択された。

#### **(5) 閉会式**

閉会式は、24日（木）午前の第2回全体会議に引き続き行われ、まず、次回第44回総会を2023年8月にインドネシアで開催することが決定された。次に、ヘン・サムリン議長及び加盟国8代表団の団長が共同コミュニケへの署名を行った。最後に、ヘン・サムリン議長が閉会挨拶を行った後、次回総会開催国であるインドネシアのプアン・マハラニ国会議長が、受諾演説を行った。

### **3. その他の活動**

#### **(1) 二国間会談**

代表団は、総会期間中、タイ、ベトナム及びカナダの各代表団との二国間会談を行った。

タイ国会代表団とは、両国間の経済協力、持続可能な漁業に向けた取組等について、ベトナム国会代表団とは、両国間の議会間交流の促進、地域の安全保障等について、カナダ議会代表団とは、ロシアによるウクライナ侵略、途上国に対する感染症対策支援等について、それぞれ意見交換を行った。

#### **(2) 視察**

代表団は、シェムリアップを訪問し、バイヨン寺院及びアンコールワット寺院の修復事業を視察するとともに、アンコール遺跡修復事業関係者から説明を聴取したほか、山本日本語学校を訪れ、オンライン授業の視察及び学校関係者との懇

談を行った。また、プノンペンにおいて、サンライズジャパン病院を訪問し、病院関係者から説明を聴取した後、病院内施設を視察したほか、カンボジア工科大学を訪れ、概要説明の聴取及び学長への表敬を行った後、大学構内を視察した。このほか、在留邦人との懇談を行った。

### (3) 邦人慰霊碑献花

代表団は、ウナラオム寺院及びタンコーサン寺院をそれぞれ訪れ、国連平和維持活動中に殉職、犠牲となった故中田厚仁国際連合ボランティア慰霊碑及び故高田晴行警視慰霊碑並びに1970年代にポル・ポト派支配地域を取材中に病死された故石山幸基共同通信プノンペン支局長慰霊碑に献花を行った。

## 4. 終わりに

1973年以降、深化を続けてきた日本とASEANの関係は、2023年、日ASEAN友好協力50周年という歴史的節目を迎える。ロシアによるウクライナ侵略に起因するエネルギーや食料の価格高騰、新型コロナウイルス感染症からの回復といった地球規模の課題に直面している中、政治、経済、安全保障、人的交流といった幅広い分野において、日本・ASEAN関係の更なる強化が求められており、日本がODA等を活用したASEAN連結性強化に向けた取組を支援し、ASEAN共同体の統合強化を後押ししていくことが一層肝要となっている。

総会では、こうした観点から、団長演説においてASEAN共同体深化に向けた更なる支援について表明したほか、AIPAと日本との対話において、日本及びASEAN各国が抱える課題や我が国に期待する役割に直接耳を傾け、地域及び世界の平和と持続可能な成長に向けた日本とASEANとの協働につき、忌憚のない意見交換を行った。こうした対話の場は、日ASEAN間の信頼強化に大きく資するものであり、今後もAIPA総会への継続的な参加を通じ、議会外交の面から日ASEAN関係の更なる強化につながることを期待される。

最後に、今次総会議長国を務めたカンボジアの議会関係者及びAIPA関係者の御厚情並びに在カンボジア日本国大使館、視察先関係者等の多大なる御協力に対し、改めて感謝の意を表す。